

社会福祉法人 岡山福祉会

DX宣言書

2026年2月18日
社会福祉法人 岡山福祉会
理事長 斉藤 勝栄

□ 経営理念

1. 幼児教育保育の子どもの最善の利益のため、子どもたちが将来にわたって、自分らしく自由に生きるための基礎を育む。
2. 高齢者の在宅での自立を支援し、高齢者が人間としての根源的な苦しみや四苦八苦に向き合うことにコミットし、敬意と尊厳をもって、その人らしい人生に寄り添う。
3. 職員の公平な処遇、生活の安定を通して、職員の最大限の幸福を実現する。

□ DXビジョン(2~3年後にありたい姿)

- ◆ 幼児教育・保育分野
 - ・ 社会課題にチャレンジし未来を切り開く人材を育成するため、DX推進により新しい乳幼児教育を実践します
 - ・ 子どもの成長を記録するドキュメンテーションシステムの活用により、根拠に基づいたサービスを創造します
- ◆ 高齢者福祉分野
 - ・ 人権と人間の尊厳を大切に介護事業を進めるため、DX推進により社会課題に応える新しい高齢者福祉サービスを実現します
 - ・ 「高齢者家族・高齢者」対「施設・介護従事者」ではなく、「高齢者」を真ん中に、「高齢者家族」と「施設・介護従事者」と「地域社会」が繋がる関係、情報伝達システムを構築します
- ◆ 法人・組織運営分野
 - ・ DXの推進を通じて、職員が人間・労働者として尊重され、能力を発揮できる居場所を提供することで、職員の幸福の最大化を実現します

□ DX戦略・施策

➤ フェーズ1(現在 ~ 2027年3月)

戦略 「デジタル化に向けた基盤構築」

- 施策
- ・ DXの取り組みを着実に進めるため、DX戦略を策定の上、DX認定を取得
 - ・ 各部門の業務プロセスを可視化し、改善・効率化を目的として、デジタル化に向けた取り組みを実施【具体例】
 - 連絡帳の電子化や自動下書き機能の導入により、職員の事務負担を軽減
 - スマートフォンやクラウドツールを活用し、活動報告や緊急連絡を保護者・家族と即時に共有
 - 各分野の情報をデータ化・分析・マニュアル化することで、根拠に基づく教育・介護を実践

➤ フェーズ2(2027年4月 ~ 2028年3月)

戦略 「デジタル化推進と成果の確認・改善・実行」

- 施策
- ・ フェーズ1で策定したDX戦略に基づき、DXを推進【具体例】
 - ITツールやAIを活用し、保護者がいつでも園児の活動状況を確認できる仕組みを構築
 - 保護者が不安や疑問を気軽に相談できるオンライン支援の仕組みを構築
 - 利用者の健康状態やニーズをデータ分析し、個性性の高い介護支援計画を実現
 - クラウドツールやAI活用により業務を効率化し、職員が「人対人」の業務に専念できる環境を整備

➤ フェーズ3(2028年4月 ~ 2031年3月)

戦略 「DXの全面実装を行い、持続可能なデジタル経営基盤を確立」

- 施策
- ・ 子どもや高齢者を中心に、家族・施設・地域社会を繋ぐ情報伝達システムを実現
 - ・ 各分野の業績を即時に把握できるシステムを導入し、迅速かつ正確な経営判断が行える環境を整備

□ DX推進体制

- ・ 理事長がDX推進における実務執行統括責任者を務めます
- ・ DX推進チームがDX戦略実行の中心的役割を担います

□ DX推進目標

- ・ 記帳業務のデジタル移行による、手書き作業の削減 : 2025年度比 50%以上(~2028年3月)
- ・ 紙マニュアルの電子化 : 完了(~2028年3月)